

## 今後の主な検討課題

## 1. 昨年度検討会で挙げられた課題

項目	内容
エコツーリズム推進法による法規制の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度検討会では、今年度ルールの実施結果に基づき、法規制を実施するか否か検討することとした。</li> <li>・ 地域ルールでは法的根拠がないので、利用者に理解・協力してもらうことが困難との意見あり。</li> </ul>
団体ツアー / 修学旅行生の受入人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度検討会では、将来的に縮小方向で検討することで合意した。</li> <li>・ 修学旅行生は、環境教育としての意味もあるため、受け入れてもいいのではないかという意見あり。</li> </ul>
ルール適用期間（5 / 15 ~ 8 / 31）の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産卵期が徐々に早まっており、7月末に観察できるウミガメの産卵個体が少ない。</li> <li>・ 夏休みに入ると子どもたちが増え、安全管理が難しい。</li> <li>・ 観察会を5月1日～7月15日までに前倒しする案あり。</li> <li>・ ただし、その場合7月15日～7月31日までの対応方法を要検討</li> </ul>
協力金の位置づけと金額の見直しについての検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政機関が関与するルールの中で、観察会への参加を呼びかけるため、協力金の用途等について把握が必要。</li> <li>・ エコツーリズム推進法に基づく法規制を実施する場合は、利用規制に必要な「手数料」を徴収することができる。ただし、強制的に徴収するものなので、積算根拠をしっかりと精査する必要がある。</li> </ul>
人材育成制度（「うみがめガイド制度（仮称）」）の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウミガメに関する知識の向上を図るため、スタッフを対象にウミガメに関する講習等を開催し、受講者を「うみがめガイド（仮称）」として認定する人材育成制度を検討する。</li> </ul>
観察区域の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察できる区域を設定して、それ以外の場所での産卵個体は見せないという提案あり。</li> </ul>

## 2. その他の課題

項目	内容
他地域への観光客の集中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 永田浜で利用制限が始まったことで、栗生浜や田代海岸で観光客等が増加している。</li> <li>関係行政機関で対応を要検討。</li> </ul>
受入れ人数の超過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度ルールを開始したが、上限人数とした80名を超える日が少なくなかった。</li> <li>・ 予約や受付のあり方を見直す必要がある。</li> </ul>